

2024 年度実施概要

■学校名

与論町立 那間小学校

■採択活動名

ゆんぬ学

■実施単元

単元名	学年	教科
1. 調べよう 知ろう ユンヌの作物	4	ゆんぬ学
2. ユンヌの海と環境問題	5	ゆんぬ学
3. ユンヌの魅力発信（景観学習）	6	ゆんぬ学

※実施した単元の数に応じて記載（欄は適宜追加してください）

※総合的な学習・探究の時間等においても、一連の学習活動のまとまりを単元として捉え、どのような学習が展開されたか（具体的な学習の姿、学習の高まり、目的など）を端的に表現し単元名としてください。

■取り組みの概要

1 はじめに

海洋教育科「ゆんぬ学」では、「海と人との共生」に迫ることはもちろん、島だちの力を身に付けさせることをねらいとしている。このねらいを達成するために、学年ごとにテーマを設定し、地域と連携した協働的な探究学習を展開してきた。

2 活動内容

4年・・・サトウキビの栽培体験と黒糖づくり

4年生は、学校農園を利用してサトウキビ栽培に取り組んだ。4月から定期的にキビ畑の草取りやキビの生長観察をした。そして1月末に保護者と協力してキビ刈りを実施した。雨の中だったが、キビ用の鎌を上手に使い、葉を落とす児童の姿が見られた。与論の基幹産業に触れ、楽しさや大変さを実感することができたようだ。またそのキビを使用して民俗村にて黒糖作り体験をした。手作業でキビを絞り、数時間煮込むことで純度の高い黒糖を完成させることができた。



5年・・・「与論の海を守ろう」

5年生は海と環境問題をテーマにいろいろな活動を行ってきた。池田香菜さんや海謝美の方々を講師に招きヨロンのサンゴやウミガメ、海ゴミの現状や課題などについて学びを深めた。講師の池田龍介さんからは、ゴミを出さないことの大切さやアップサイクルについて教わった後、実際に与論の海岸清掃も行い、自分たちで拾ってきたマイクロプラスチックをキーホルダーにアップサイクルする創作活動を行った。それらの体験活動を通して「与論の海は、人間にとってはきれいに見えても、海の生き物にとっては住みやすい環境ではないこと」や「ゴミを再利用するリサイクルよりも、ゴミになるものを元々生み出さないリデュースが大切であること」など、与論の海について考えを深めることができた。2月に1年間の学びを与論教育フェアで発表した。



6年・・・「那間の魅力を発見して伝えよう ～景観学習～」

6年生は、「那間の魅力って何だろう」を出発点に意見を出し合った。4月 は海や星空以外のことは思いつかない様子だった。その後、校区探検で土地利 用の様を観察し、疑問等をもとに「産業・自然・観光・歴史」のグループを 作った。与論牛を育てる牛舎や与論の素材を使った器を作る窯元を見学したり、グラスボートで海から陸の様子を観察したりした。他にも星のソムリエ に与論の星空について話を聞いたり役場の環境課の方から美しい景観づくり のためにしていることを学んだりもした。そのよう



な活動を通して児童は、「自分たちが当たり前だと思っていた美しい景観は、本当は素晴らしいものなんだ」「海や星の他にもこんなに素敵なもの・場所・人があるんだ」と与論・那間の魅力を再発見することができた。また、そのような美しい景観を守るために多くの人々が努力していることにも気付いていた。学習の後半には、自分のおすすめの景観を写真撮影し、その魅力をまとめた。学習の成果は、保護者・地域の方々や景観学習講師に向けて発表した。

3 おわりに

今年度も地域と連携して、探究的な学習を進めることができた。景観学習は2年目の取組であったが昨年の取組をベースに校区の良さを再発見する児童の姿が見られた。今後も本校の特色ある取組として継続していきたい。